

# 第一外科 この一年

第一外科医長 西山 徹

## はじめに

平成6年6月1日より、伊藤清高先生に代わり私が名寄に赴任しました。伊藤先生は、平成5年6月よりスタッフが入れ代わり新体制となった、現在の第一外科の基盤を築きました。なかでも、毎週火曜日の第二内科との症例検討会は、各種画像による術前診断と、術中及び病理所見とを比較検討することにより、症例から学ぶことの大切さを再認識させられました。私もこのような伊藤先生の業績を継承し、更に発展させるべくこの一年臨床に携わって来た訳ですが、平成6年1月～平成6年12月までの手術症例を中心に、当科の診療概況を述べようと思います。

## 診療スタッフ紹介

基本的には、私と3カ月出張医と3年目研修医との構成です。3カ月出張医としては、伊藤清高先生・富山光広先生・大野耕一先生・奥芝知郎先生があたってくれました。全員が名寄経験者で院内事情にも精通しており、即戦力として貢献してくれました。また、当科は北大第二外科の再北端関連施設ですが、常に大学の新鮮な空気を注ぎ込んでくれました。3年目研修医としては、岡村圭祐先生が20代のパワーを遺憾なく発揮してくれました。

## 手術症例

平成6年1月1日～平成6年12月31日までの当科の手術症例数（局麻症例を除く）は、229例でした。Bed数20床でend stage症例のfollowも行っている現状では限界的な数字かと思います。内訳は（表1）の如くで、症例があれば食道癌手術、臍頭十二指腸切除術、肝切除術などの Major surgery も積極的に施行しております。腹腔鏡下手術も積極的に取り入れ、腹腔鏡下胆嚢摘出術は

現在50例を突破しました。また最近話題となっている腹腔鏡下ヘルニア根治術も積極的に取り入れ、現在では10例を超えました。同術式は、道内でもまだ限られた数施設でしか施行されておりません。従来法と比較し、在院日数が短いこと、術後のつっぱり感がないこと、美容上傷が目立たないことなどの利点があり、従来法に代わり今後ますます普及していくものと思われます。また腹部救急疾患としては、外傷性十二指腸破裂1例、外傷性肝損傷2例を経験しております。いずれも早期診断治療を行なわないと致命的となる疾患ですが、迅速かつ的確な診断治療によりいずれも救命しております。外傷性十二指腸破裂については、岡村先生が当院内誌において、症例報告をしておりますので御一読ください。冒頭でも述べましたが毎週火曜日に第二内科と症例検討会を施行しており、平成6年1月1日～平成6年12月31日までの間に、第二内科より紹介となり手術した症例は、95例ありました。急性虫垂炎、ヘルニア、肛門疾患を除くと、当科での手術症例（局麻を除く）は126例ですので、なんと当科の手術症例の約75%を占めることになります。第二内科の諸先生方には、この場を借りて感謝致します。

## おわりに

つねに最先端の医療を目指し、道北の機関病院の消化器外科としてその名に恥じぬよう、スタッフ一同今後も努力していく所存であります。

表 1. 名寄市立総合病院 第一外科 手術症例 (1994. 1. 1 ~ 1994. 12. 31)

① 食道疾患 <2例>	⑦ 肛門疾患 <15例>
食道癌 2例	内外痔核 13例
	肛門周囲膿瘍 2例
② 胃疾患 <21例>	⑧ 肝臓疾患 <4例>
胃癌 19例 (胃全摘5例)	原発性肝癌 2例
胃良性疾患 2例 (胃潰瘍穿孔)	外傷性肝損傷 2例
③ 十二指腸疾患 <2例>	⑨ 胆道系疾患 <48例>
十二指腸ポリープ 1例 (6×5×3cm)	胆石症 40例
外傷性十二指腸破裂 1例	(腹腔鏡下手術29例)
④ 腸疾患 <33例>	総胆管結石症 3例
大腸癌 20例	胆嚢癌 3例
イレウス 7例	胆管癌 2例
その他 6例	
(SMA血栓症・外傷性結腸穿孔etc.)	⑩ 膵疾患 <2例>
⑤ 急性虫垂炎 <47例>	Vater乳頭部癌 2例
⑥ ヘルニア <41例>	⑪ 乳腺疾患 <10例>
小児鼠径ヘルニア 8例	乳癌 8例
成人鼠径・大腿ヘルニア29例 (腹腔鏡下手術3例)	乳房形成 2例 (腹直筋皮弁)
腹壁癒痕ヘルニア 4例	⑫ その他 <4例>
	甲状腺疾患・副甲状腺疾患・乳癌局所再発etc.
	合計 229例